

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論	ファッション業界をグローバルな視点からみつめる4年間のコース。アパレル各分野の発展を担うリーダーとなる人材の育成を目的としている。 1年次では、アパレル全般を理解するため総合的に学び、レディスを中心とした服飾全般の基礎知識と技術を習得する為に、縫製技術の基礎から綿素材のスカート、ブラウス、パンツ、裏付きのウール素材のスカート、ジャケット、ワンピースを製作する。	1・通年	120	4	○			○			○	
○			服装造形デザイン	1、基礎Ⅰ・基礎Ⅱ 一般知識・縫合の基礎(部分縫い)・作図の基礎 2、体型研究 トワル制作・試着補正・レポート	1・通年	120	4			○	○				○
○			服装造形パターンメイキング	3、スカートⅠ デザイン・パターン・実物制作・レポート 4、ブラウス デザイン・パターン・実物制作・レポート 5、立体裁断 PM対策・ボディ準備(目標線の入れ方)	1・通年	60	2			○	○				○
○			服装造形ソーイング	6、スカートⅡ デザイン・パターン・実物制作・レポート 7、ジャケット デザイン・パターン・実物制作・レポート 8、パンツ デザイン・パターン・実物制作・レポート 9、ワンピースドレス デザイン・パターン・実物制作・レポート	1・通年	270	9			○	○				○
○			量産技術概論・実習	工業用ミシン、アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法の基礎を習得し、アパレル製品の生産について、関心を持たせる事を目的とする。 前期は、量産的手法に基づいたシャツの縫製実習を短期集中で行い、後期は講義において、実習での作業内容と通常授業における一品作りとの違いについて認識させる。	1・通年	30	1	○		△	○				○

(2/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究 I A	前期・後期の学習内容をふまえて応用、発展させる。自由にテーマを決めて作品を制作し、プレゼンテーションをする。	1・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究 I B		1・後期	30	1			○	○		○		
○			ファッションデザイン画 I	ファッションデザイン画としての人体のバランスを理解し、基本となる衣服を身に着けた時の量感、フォルムの表現を習得する。服の構造、デザインを第三者に伝わるデザイン画のスキルを身に付ける。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・デザインイメージを見る側に伝える基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服飾デザイン論 I	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定:色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やデザイン展開、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		

(3/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類					授業方法	場所	教員
----	--	--	--	--	------	----	----

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル（衣服）の素材である繊維・糸・布地・染色加工の基礎知識について、講義や実験実習を通して理解させる。また、アパレル業界の現状と関連付けながら素材解説をし、自身の制作物やビジネスにおいて的確な素材選定ができる力を習得することを目標とする。	1・通年	60	2	○			○		○			
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○			○		
○			ファッションビジネス概論	ファッションビジネスに必要とされるファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャンダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○		
○			コンピュータグラフィックⅠ	グラフィック系ソフトの基本操作を、4年の在学期間の課題製作等の基本のツールとして活かせるように、しっかりと習得させる。2年次以降につなげる。	1・通年	60	2				○	○			○	
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニク・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1				○	○			○	
	○		ファッション英会話Ⅰ	基礎的な文法知識を持っている学生対象の会話のコース。日常生活あるいはファッションに関連する事例からトピックを選び、英語表現を学ぶ。文法事項の復習と補充、ロール・プレイを通じた会話練習、聞き取り、英作文などを組み込んだ構成とする。	1・後期	30	1				○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		フランス語 I	初めて学ぶフランス語の音と仕組みに母国語とは異なる面白さを感じられるよう、個々の興味を促し、発音練習を楽しめるように講義を行う。「聴く、話す、読む、書く」を通じてフランス語の基本文法を理解しながら、まずは挨拶と簡単な自己紹介が出来るレベルを目指す。映画や音楽、香り、ファッションなどフランス文化の話題も紹介し、実際にフランス映画やシャンソンを鑑賞する機会も提供する。	1・後期	30	1			○	○			○	
	○		中国語 I	初級1、2段階では、「中国語検定試験・準4級」を基準とします。 準中級1段階では、「中国語検定試験・4級」を基準とします。	1・後期	30	1			○	○			○	
		○	コラボレーション ^a	企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。人と人との様々なつながりと調和が必要となるため柔軟な人間力、コミュニケーション能力を身につける。	1・後期	30	1			○	○			○	
○			特別講義・キャリア開発 I	レギュラーカリキュラムに含まれない関連分野の知識習得及び、人材育成のための講義などで構成する。 テキスタイル情報、コレクション情報、キャリア教育、ファッションビジネス、舞台衣装、着物の知識、パターンメーカーの仕事、ビジネスマナー、デザイナーについてなどの各スペシャリストを講師に招いての特別講義を行う。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			校外研修 I	美術館見学や歌舞伎、工場見学などを通して、ファッション情報に関する見聞を広げる。	1・前期	30	1			○	○			○	
学年合計					18科目	1,170単位時間(39単位)									

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			アパレル造形論Ⅰ	・ 1年次に習得した基礎知識、技術をもとにアパレル造形として発展させ、トレンドを意識した商品としての価値観を加味しデザイン発想する。また、デザイン別・素材別のパターンと縫製技術を習得する。	2・通年	120	4	○			○	○				
○			アパレル造形演習 デザインⅠ	・ 個に対する服作りから不特定多数の量産への意識付けと理論の展開を図り、縫製仕様・縫製方法を理解する。 ・ ドレーピングの習得を通しバランス感覚を養い、立体感とデザイン発想を各自の作品に反映させる。	2・通年	120	4		○		○		○			
○			アパレル造形演習 ドレーピングⅠ	1、一重ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート 2、総裏ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート 3、皮革作品 デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・通年	120	4		○		○		○			
○			アパレル造形演習 実技Ⅰ	4、修了制作 デザイン・パターン・実物製作・レポート 5、ドレーピング 胸ぐせダーツの応用・スカート・ブラウス・ジャケット (使用ボディ…文化ボディ)	2・通年	150	5			○	○		○			
○			生産管理概論	生産活動の重要な要素であるQ (品質) C (原価) D (納期) について認識を向上させることを目標とする。 生産実務において情報伝達に用いられる「縫製仕様書」「加工・裁断・芯貼り指図書」を作成できる力を身につける。 また生産現場である工場と円滑に業務を遂行することを目指し、製造現場での取り組みを知ること、企画で設定したQCDを実現するための基礎的な能力を養う。	2・前期	30	1	○			○		○			
(6/18)																
授業科目等の概要																
(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度																
分類									授業方法			場所		教員		

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
○			自由研究ⅡA	<p>・ 子供服の一般知識と原型を理解し、グループで型出し・プレゼンテーションを行う。</p> <p>・ 一重ジャケットとのコーディネートを考えてボトムスを製作する。</p>	2・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究ⅡB		2・後期	30	1			○	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	<p>独自の発想力、デザインに対してのイメージをいかに具体的に表現していくかを考える。</p> <p>様々な発想の手法を探り、試し、実験して行きながら新たなデザインの可能性を考えていく。</p> <p>画材の特徴特質を知ることによってデザインの表現テクニックを強化し独自の表現方法を研究していく。</p>	2・通年	60	2			○	○		○		
○			色彩計画	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザインに活用するための配色の技術、色彩計画の考え方を学習する。	2・後期	30	1	○			○		○		
○			アパレル素材論Ⅱ	アパレル素材論Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、講義や実験・実習を通し、素材特性を最大限に引き出したより完成度の高いアパレル製品をつくる力や知識を身につける事を目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル染色演習Ⅰ	テキスタイル染色に関する基礎的な知識、技法を各種実験・実習を通じて得ることにより、アパレルにおける新たなデザイン発想の可能性を広げる。さらに、染色・加工の観点からテキスタイルについて理解を深めることを目標とする。	2・前期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅱ	1年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測（石膏計測）により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服設計（デザイン）を行う。	2・後期	30	1	○		△	○		○		

○			ファッションマーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。 ・マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。 	2 ・ 後 期	30	1	○				○			○		
---	--	--	---------------	---	------------------	----	---	---	--	--	--	---	--	--	---	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CADパターンメイキングⅠ	アパレル産業の設計・生産・製造のプロセスにおいて利用されている「アパレルCAD」について、その有用性を認識し活用するための技術を身につける。CADでの囲み作図や、手書きの作図をスキャナで入力したものをデータ化し縫い代をつけるなど、工業用パターンを完成させる方法の基本的な操作を習得する。基礎的な作業ができるレベルを目指す。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			ニットアパレル造形Ⅰ	ハンドニットの一般知識（素材・道具・編み地）と棒針、鉤針の編み方の理解と作品作りの知識を習得し、ニットの可能性を広げる。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			コンピュータグラフィックⅡ	グラフィック系ソフトの基本操作技術をレベルアップさせ、アパレルデザインや各種プロモーションツールの制作等、実戦に活かせるスキルを身につける。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			帽子	帽子の一般常識と帽子に対する知識を深め、服飾に於ける帽子の位置づけを理解させる。トータルイメージを表現する力を養い、作品制作を通して帽子のイメージや服とのバランス感覚などを把握。	2・後期	30	1			○	○			○	
	○		ファッション英会話Ⅱ	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に文法の復習と、口頭での運用力の強化を主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増やすこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。	2・通年	60	2			○	○			○	

○	フランス語Ⅱ	フランス語を半期学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単に日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニケーションをフランス語でできることを目指す。	2・通年	60	2	○	○	○											
---	--------	---	------	----	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(8/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携				
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任					
○			中国語Ⅰ	発音の土台「ピンイン」から始め、難関の「四声」「変調」「巻き舌音」をマスターします。入門段階では、単語を蓄積しながら文型入り、実践練習で会話表現を覚えます。初級段階では、時制のニュアンス、意思の伝え方を学びます。中検準4級基準。準中級段階では、疑問表現を学ぶほか、物事の比較・類似・比喩表現についてトレーニングします。中検4級基準。	2・通年	60	2			○	○		○						
		○	コラボレーションb	企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。人と人との様々なつながりと調和が必要となるため柔軟な人間力、コミュニケーション能力を身につける。	2・後期	30	1			○	○			○					
○			特別講義・キャリア開発Ⅱ	・レギュラーカリキュラムに含まれない関連分野の専門知識を習得する。 ・アパレル産業の現状や先輩の実体験をアドバイスされることにより将来の方向性を決めていく。	2・通年	30	1	○			○			○					
○			校外研修Ⅱ	・研修を通して更に学生同士のコミュニケーションを深めると共に、研修先での企業研修、工場見学、体験学習から得られる自己の可能性を発見出来る様、創造性の領域を広げる。 ・研修先の企業の方とも、積極的に質問や自己アピールに挑戦し、自己の知識の引き出しを多く得られる様、後々の自分の進むべき道の参考になる様に研修中もアンテナを張る努力をする。	2・前期	30	1			○		○		○					
学年合計				20科目															1,170単位時間(39単位)

(9/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル造形 論ⅡA	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、平面作図からだけのデザインではなく立体からもとえられる様、自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品製作まで個性を生かした表現、テクニックの育成をする。4年生のプライベートコレクションに繋げられるよう課題を進める。 1 カジュアルウェアⅠ デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 2 バザー作品(カットソー)文化祭バザー作品(セットアップ) 3 ニューフォーマル デザイン/OP・ドレープ/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 4 ウィンターデザインコート デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 5 修了製作(後期) デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 6 ドレーピング ストレート原型/3面構成JK/ラグランスリーブコート/自由研究 ※使用ボディ・・・工業ボディ	3・前期	30	1	○			○		○		
○			アパレル造形演習 デザインⅡA		3・前期	60	2		○			○			
○			アパレル造形演習 ドレーピングⅡA		3・前期	60	2		○			○			
○			アパレル造形演習 実技ⅡA		3・前期	90	3			○	○			○	
○			アパレル造形 論ⅡB		3・後期	30	1	○				○		○	
○			アパレル造形演習 デザインⅡB		3・後期	60	2		○			○		○	
○			アパレル造形演習 ドレーピングⅡB		3・後期	60	2		○			○		○	
○			アパレル造形演習 実技ⅡB		3・後期	120	4				○	○		○	
○			生産演習	アパレル産業の生産プロセスのうち、縫製工場における工業的な生産方法について「セル生産方式」をベースにした実習を通して理解を深める。均一な製品を安定的かつ効率的に生産するための手法として用いられる生産指示書類の重要性も再確認する。また完成品の検品を行うことで、商品となって消費者の手に届く製品が満たすべき品質を認識することを目標とする。	3・後期	30	1				○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル商品企画・演習	ファッション業界における、企画デザイナー、デザイナーブランドのどちらにも対応出来るよう、ブランド設定、ターゲット分析、オリジナルデザインによるサンプル制作を通して、商品としての企画を学ぶ。 また生産管理や工場への注文など細部に渡り、企業で行われている仕事の内容や方法を理解する。	3・前期	30	1	○		△	○			○	
○			自由研究Ⅲ	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、平面作図からだけのデザインではなく立体からもとらえられる様、自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品製作まで個性を生かした表現、テクニックの育成をする。4年生のプライベートコレクションに繋がられるよう課題を進める。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			ファッションデザイン画ⅢA	コンテストに応募することにより想像力を向上させ、プレゼンテーション能力も向上させる。 ポートフォリオ用の作画テクニックを指導し表現能力を高める。	3・前期	30	1			○	○			○	
	○		ファッションデザイン画ⅢB	独自の発想力、デザインに対してのイメージをより具体的なものへと形づくるための描く技術を習得。 デザインの表現テクニックを強化し、プレゼンテーション方法を常に考え提案していくことを目標とする。	3・後期	30	1			○	○			○	
○			アパレル品質論	テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。講義と演習により理解を深める。	3・後期	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			テキスタイル産業論	アパレル製品の主な材料であるテキスタイルを、編織の技法や工夫、染色加工、特殊加工など生産の観点から理解させる。また、工場、産地、見本市などのテキスタイル産業とアパレルが実際にどのように関わり、製品が作られて行くかを学ぶ。	3・後期	30	1	○			○		○			
		○	服装解剖学Ⅲ	1・2年次で学習した人体の構造と運動を基礎とし、さらに3次元計測機による運動計測方法についての知識を得て、人体の動きとパターンの関係について認識させる。青年・中年・高齢者の体型特徴と衣服の関係についての理解を深める。また、障がい者衣料に関する知識とパターンについても学ぶ。	3・前期	30	1			○	○			○		
○			アパレルマーチャンダイジング	MDの基礎的な講義を踏まえ、ブランド立案実習を実施。各学生のブランド(事業)立案を通してMD業務の基礎を習得。レベルとしてはMD実務の基礎レベル。MD業務の基礎を習得し、ビジネスの構想力を高める。	3・前期	60	1	○				○		○		○
	○		CADパターンメイキングⅡ	アパレル産業において工業化された設計・生産・製造のプロセスを認識し、生産技術の1分野である設計に活用されるアパレルCADシステムを利用して工業生産設計の流れと設計の考え方・手法・方法の理解を深め、設計システムの構築とその管理迄の内容を行う。	3・後期	30	1			○	○			○		
	○		生産管理各論 生産企画	アパレル製品を生産する上で必要となる業務について、メーカーにおける生産関連担当者の職域を中心に学ぶ。商品企画段階で設定される、品質(Q)・原価(C)・納期(D)を高水準で成立させることを目標に、生産実務に至る準備段階から事後処理までを体系的に理解する。グローバル化に伴う海外生産の拡大も視野に入れ、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案する。	3・通年	60	2	○			○		○			

○	グレーディング	グレーディングの基礎・知識・実務レベル・オペレーション操作方法の理解・習得	3・後期	30	1				○	○		○		
---	---------	---------------------------------------	------	----	---	--	--	--	---	---	--	---	--	--

(12/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ニットアパレル造形Ⅱ	ニット製品の製作工程や編立技術などを総合的に学び、アパレルの中のニットを理解できる人材を育成する。ニットに使用される素材・編地・縫製技術を商品解説と共に主に家庭用手編み機の実習を通じて理解を深める。	3・後期	30	1			○	○			○	
○			ニットアパレル造形(カット&ソー)Ⅰ	美しいシルエットを作る立体裁断とパターンの理解。 丸編みで立体裁断の基礎知識とカットソーの縫製知識を理解する。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			コンピュータグラフィックⅢ	Adobe Illustratorを使っての精密なイラストの作成及びデザインデータの展開。パリエーションの表現力を上げ、ビジュアル・プレゼンテーションの表現力を向上。 先染柄やプリント柄の図案作成などを学び、より美しく精度の高い物を描ける様にする。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		アクセサリ- a	アクセサリ-は服を引き立たせるための小道具である。新しい素材を取り込み服とのコーディネートを意識したオリジナリティの高いアートアクセサリ-制作、そして服作りのヒントにと意識している。	3・後期	30	1			○	○		○		

○			造形演習	発想-表現-コミュニケーション 3つを連動させながらクリエイションの力をつける。 特に自分自身を見つめ、コンセプトをしっかりと組み立てる力を養う。制作の姿勢が社会や世界に向いていること。 発想力、(特にグラフィックにおける)表現力、伝える力(プレゼンテーションスキル)の強化を目指します。	3・前期	30	1				○	○		○		
○			アパレル染色演習Ⅱ	1、2年次で学習した素材および染色の知識や技術をもとに、応用的な浸染・捺染法を習得する。 実習により発展的なテクスチャー表現を身に付け、アパレル作品の企画、制作力の強化につなげる。	3・前期	30	1				○	○		○		

(13/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		ファッション英会話Ⅲ	基礎的な文法の確認をしつつ、ファッションをテーマとした会話の練習ができるコースを目指す。ファッションに関連した語彙を増やす事も目的の一つである。リスニングの練習も組み込み、英語運用力を高める。	3・通年	60	2			○	○				○	
	○		フランス語Ⅲ	毎回フランス語の発音・表現に親しみ、基本文法の理解に基づく平易な文章読解および日常会話に必要なスキルの向上を目指す。講義ではポピュラーなシャンソンを紹介し、歌いながら発音練習も行う。フランス文化(ファッション・香り・料理)も題材とし、文化の多様性にも意識を向けて、フランス語により興味を持って意識できる機会を多く設ける。目標レベルはDELTA A1~2、または実用フランス語検定4~3級。	3・通年	60	2			○	○			○		

○		中国語Ⅱ	応用力養成:疑問詞を用いて問答式の促進を行います;夫々に合う日本語例文を示し、中国語への転換及び会話練習をします;中検2級基準。 会話練習:日常シーンに即した語彙、及び衣食住行等の中国文化と外国文化の結びつき方を習います;社会環境的なムードによって生じた異なる言語表現を習います。 服装関連:ファッション関連用語・工場用語に関する中国語語彙を習います。	3・ 通年	60	2				○	○	○		
	○	コラボレーションC	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、外部講師、企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。あわせて、ビジネス戦略にあわせた作品制作。 個性を生かした表現方法を身につける。	3・ 通年	30	1				○	○	○		
○		特別講義・キャリア開発Ⅲ	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。デザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業・商社などを対象として各専門分野の方々との出会いを多くし物事に対する洞察力を養う。	3・ 通年	60	2	○			○		○		

(14/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	インターンシップⅠ	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。審査を受けて希望するデザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業も対象として実務体験をする。	3・ 後期	60	2			○		○	○		
学年合計			23科目		1,110単位時間(37単位)										

(15/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			アパレル造 形 論ⅢA	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究するとともに広い意味で自己の可能性を発見し、創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品制作のプロセスの中で個々の目的に応じて個性を生かした表現・テクニックの育成をする。 1、 プライベートコレクションPart I・II ・7～10体製作・・・デザイン・パターン・実物制作・発表（ショーまたは展示） 2、 ドレーピング ・パンツ 9ARレギュラーパンツボディ ・ジャケット 文化ヌードボディ（キノスリーブ） ・コート 文化ヌードボディ ・ニューフォーマル 文化ヌードボディ 3、 コンテスト作品	4・前期	30	1	○			○			○		
○			アパレル造 形演習 デ ザインⅢA		4・前期	60	2		○			○			○	
○			アパレル造 形演習 ド レーピング ⅢA		4・前期	30	1		○			○			○	
○			アパレル造 形演習 実 技ⅢA		4・前期	60	2			○	○				○	
○			アパレル造 形 論ⅢB		4・後期	30	1	○				○			○	
○			アパレル造 形演習 デ ザインⅢB		4・後期	60	2		○			○			○	
○			アパレル造 形演習 ド レーピング ⅢB		4・後期	30	1		○			○			○	
○			アパレル造 形演習 実 技ⅢB		4・後期	60	2			○	○				○	

	○		ニットアパレル造形 (カット&ソー)Ⅱ	美しいシルエットを作るパターンの理解と縫製 丸編みカットソーの立体裁断の考え方と企業向け縫製テクニックの見本帳作り	4・後期	30	1			○	○		○		
	○		アパレル染色演習Ⅲ	アパレルデザインを行う上 重要である素材の染色加工に関する専門知識を養う。 理論・技法・工程など実技を通し習得する。時代に沿った 各種表現方法を分析し構成する。	4・通年	60	2		○		○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		テキスタイル企画演習	デジタルプリント機器を利用した布地制作を通してテキスタイルの知識・理解を深める。アパレルに利用されるテキスタイルを企画するという視点から、主にプリントの企画をたて、プレゼンテーションする技術・能力を身につける。	4・通年	60	2			○			○		
	○		コンピュータワーク (生産管理)	応用的なアパレルCADの使用方法和、アパレルCADを中心とした様々なソフトウェアを関連づけて活用できることを目標とする。同じ資料を様々な方法で作成することにより、ソフトウェアのメリット、デメリットを認識する。 3次元仮想ボディデータ作成や、仮想着装シミュレーションなど最先端のCADオペレーションを体験する。	4・前期	30	1			○	○		○		
	○		生産管理各 論 製品企 画	商品作成の方法とルールを実践的に学習することで製品企画実務の理解をするとともに実務レベルでの簡単な実践を行う。専門的内容を理解しやすく簡略化したうえで、一般論として学生が受け入れられ理解できる講義内容の設定とする。	4・前期	30	1	○			○		○		
	○		ニットデザインシステム演習	工業横編ニットの生産システムの理解、およびコンピュータ制御横編機、デザインシステムの使用方法を習得し、ニット作品の製作を通じて、アパレル業界におけるニット製品のデザイン手法や布帛とのバリエーションの組み方を考えられる人材を育てる。	4・通年	60	2			○	○			○	
	○		コンピュータグラフィックⅣ	今の時代にマッチしたアイデアをデザイン企画書として作成する。 商品の魅力の伝え方・売り方・パッケージングなどトータルで考える。 自分自身の能力と個性をアピールする内容のあるものを作る。	4・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		グラフィックワーク	アドビ・イラストレーターを使っての精密なハンガーイラストの作成及びデザインデータの展開、先染柄やプリント柄の図案作成などを学び、ビジュアル・プレゼンテーション（企画書）製作を習得する。また、デザイン画をC.Gで描く事、バッグやベルト等の小物アイテムを描く事を学び、デザイン・企画の展開スピードのアップと「見る人にとってわかりやすい見せ方」を習得する。	4・通年	60	2			○	○			○	
	○		アクセサリーb	アクセサリーは服を引き立たせるための小道具である。新しい素材を取り込み、卒業制作、服のトータルコーディネートを意識したオリジナリティの高いアートアクセサリー制作。	4・後期	30	1			○	○			○	
	○		雑貨企画	服飾雑貨(靴下、バッグ、帽子、アンダーウェア)の企画・生産までの流れ。ブランディング(メンズ・レディース)方法。靴下の企画、デザイン、指示書作成、サンプル作成、展示会出展までのグループワークショップ。	4・前期	30	1			○	○			○	
	○		カメラワークA	前、後期を通じて、4年間を通して学んだ技術を駆使し制作した作品(服)を写真撮ることによって、新たな自己表現力を身につける。	4・前期	30	1			○	○			○	
	○		カメラワークB		4・後期	30	1			○	○			○	
		○	コラボレーションd	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求し、外部講師・企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見する。また、創造性の領域を広げ個性を生かした表現方法を身につける。	4・通年	30	1			○	○			○	

○		ファッション英会話Ⅳ	この授業はファッション高度専門士科の学生を対象とする。この授業では初対面からグループディスカッションにおける、英語を使用した国際コミュニケーションについて取り扱う。また英語でのコミュニケーションを効果的に行う際に必要となる重要な要素についても取り扱う。	4・ 通 年	60	2			○	○		○		
---	--	------------	--	--------------	----	---	--	--	---	---	--	---	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅳ	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究するため、各専門分野の方々との出会いを多くし物事に対する洞察力を養う。レギュラー授業には含まれない関連分野の専門知識を習得する。	4・通年	30	1	○			○		○		
	○		インターンシップⅡa	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。審査を受けて希望するデザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業も対象として実務体験をする。	4・通年	60	2			○		○			○
	○		インターンシップⅡb	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。審査を受けて希望するデザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業も対象として実務体験をする。	4・通年	60	2			○		○			○
○			卒業研究・創作	4年次の学生として既に習得してきたテクニックを更に追及する。そして自己の更なる可能性を発見し、クリエイティブなデザイン発想・オリジナリティを生かした表現でファッションクリエイションを考えてマイコレクションに展開し制作する。集大成とし卒業制作ショー・展示にて各自表現する。	4・通年	240	8			○	○				○
合計				17科目	960単位時間(32単位)										
総合計				78科目	4,410単位時間(147単位)										

卒業要件及び履修方法

授業期間等

単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること

1学年の学期区分 前期・後期

1学期の授業期間 15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。